

全国保健師長会千葉県支部だより

令和3年度 号外 令和3年10月28日発行

1 千葉県支部長あいさつ

緊急事態宣言が解除され、気が付けば今年度既に折り返し地点です。新型コロナ第5波の影響で中止・縮小した事業を再開したり、振り返りの機会を設けたりしていることと思います。スタッフはもちろんの事、リーダーの皆様方も心身共にダメージが大きかったのではないのでしょうか。美味しいものを食べたり、趣味の時間を大事にしたり、ささやかでもご褒美タイムがもてるといいですね。今回の研修会報告から「次に進むパワー」を感じて頂ければ幸いです。

千葉県松戸保健所 池田 紀子

2 令和3年度南関東・東京ブロック研修会の概要

令和3年10月23日(土)午後1時からオンラインで開催されました。全国的にコロナ患者の発生状況も落ち着いてきたなかで、コロナ禍における保健師活動を振り返る機会となりましたので、皆さんにも少し概要をお伝えします。

研修資料は全国保健師長会ホームページにアップされていますのでご覧ください

<内容>

1. 全国保健師長会活動について 全国保健師長会副会長 河西あかね氏

2. 実践報告

(1)「コロナ禍における人材育成の取り組み」

東京都福祉保健局感染症対策部防疫・情報管理課統括課長代理 村井やす子氏

・「訪問、面接、電話相談の業務量を時間にして可視化することにより、相談件数からは見えない支援の複雑さが理解されたこと」「第5波で業務がひっ迫し業務に優先順位をつけざるおえなかったが、保健活動の意味は大切にしていける必要があること」「人材育成の機会はいつでもあること、非常時でも発想を変え人材育成の機会ととらえること」

(2)「神奈川県の人材確保に向けた取組とこれから～コロナ対策の経験から～」

神奈川県健康医療局保健医療部医療保険課長 津島志津子氏

・「人材確保には平時から取り組む必要があること(保健師の計画的な採用、即戦力の採用等)」「保健所でなければできない業務は保健所で、保健所でなくてもできる業務は民間企業等への委託で業務の軽減を」

(3)「さいたま市における保健師の人材育成と人材確保」

さいたま市保健所保健総務課課長補佐兼企画係長 清水雅子氏

・「今回のコロナ対応では、様々な場面において人材確保と人材育成が必要となったことから平時からOJT、Off-JT、自己研鑽を組み合わせた人材育成が重要となること」「日々の業務を通じて各保健師が成長できることが重要」

3. 講演「保健師の人材育成と人材確保～コロナ禍での保健活動を経験して」

講師 千葉大学大学院 看護学研究院 教授 宮崎美砂子氏

(1)保健師の専門機能(保健師とはどのような専門職なのか)(2)コロナ禍における保健業務の特徴(3)業務向上と人材育成を両立させるカギ(4)連携と健康危機対応における人材確保(5)コロナ禍における保健活動を通して保健師としての専門性を成熟させるために 等の項目において講話をいただきました。

・保健師の専門機能は、ただ単に知識、スキルにとどまらずコンピデンシー(姿勢、考え方、行動、価値観、こだわり)が大切で、伝えきるのは難しいが、『なぜそうしたか、なぜそう考えたか』を根気よく言葉で伝える場面を共有することが大切であること。

・保健師の活動基盤の主要概念は、人との信頼関係や予防の追及等であること

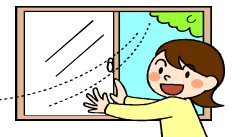
・コロナ禍の業務が長期化しており業務量の予測ができない状況であるがこのような健康危機管理対応中での事業の展開と人材育成が必要であること。

・職務遂行に関わる3つの能力としてテクニカルスキル、ヒューマンスキル、コンセプチュアルスキルがある。業務遂行能力においては、仕事経験から学ぶことが多いためOJTが重視される。

・業務の向上と人材育成は職場の両輪として意識され、OJTに関わる人すべてが共に育ちあう、また育ち合うための環境づくりが大切であること、OJTは日常的にまた計画的に行われることが重要であること。

・業務向上と人材育成を両立させるカギは、マネジメント・リーダーシップであり、マネジメントは業務を進める体制をつくる、リーダーシップは業務に関わる人を動かす。このことを全スタッフが理解しておくことが重要である。

・専門職として成熟するためには、OJTの体制づくりとして、配置、役割付与、職場風土、環境づくりが重要である。保健師とは何かを共に学び合うこと、困難なことも乗り越えて人間的成長も忘れないこと。



南関東・東京ブロックの研修はオンラインでしたが、所属におけるコロナ禍の保健活動を振り返る機会となりました。そして、実践報告や宮崎先生の講義から改めて保健師活動と人材育成を考えることができ元気になれる研修でした。御意見・感想などありましたら支部役員までいただけますと幸いです。どうぞ皆様ご自愛ください。

文責：野澤

